



▲キャンパス内の緑陰風景

世界の大学シリーズ(II) ヤンゴン〈ラングーン〉大学(ミャンマー〈ビルマ〉)



▲コンボケーションホール



▲卒業生のスナップ



▲Department of Burmese のプレートと恩師



歴史を動かした大学がここにある。1920年、当時の英領インド・ビルマ州で最初の University として創立されたこの大学は、1920年、36年の学生ストライキ、近代の新しい文学運動となったキッサンサーべイなどの舞台となり、反英独立闘争に向けて有志を数多く育ててきた。その中にビルマ独立の父と人々に尊敬されるアウン・サンもいた。また最近では、1988年3月から起きた民主化運動を強く牽引してきたのも学生たちであり、このキャンパスは若者の政治意識を醸成する場であり続けてきたのである。

私がこの大学に留学していた1983年から約2年間は比較的平穏であった。インヤー湖を背に緑陰豊かなキャンパスの最奥部に位置し、学位授与式が挙行されるコンボケーションホール周辺は、その時期になると英國風にガウンをまとった晴れがましく誇らしげな卒業生たちで埋まった。1989年6月、外交上の国名が、BURMA から MYANMAR へ変更されたのに伴い、大学名も University of Rangoon から Yangon に、通ったタウンジー校舎3階の学科も Department of Myanmar に変わった。写真は旧名時代の恩師である。

総合科学部アジア研究講座地域文化コース
民族社会研究 高谷紀夫(たかたに・みちお)

「岩の歌 一密やかなる輝きー」(25×35cm: 水彩絵の具)

一見モノトーンのなんてことない岩石。
けれど薄片にして偏光顕微鏡でみると、
とても美しい色をもっていることがあります。
見た目は地味でも、中身は輝いている。
私もいつか、そんな人間になれたらいいな。
密かな思いを込めて、描きました。

広島大学大学院学校教育研究科修士課程美術教育専攻1年 藤原香奈

